

東京モーターショー2005 と Automotive Technology Days 2005

2005年10月21日～11月6日の間、幕張メッセにおいて第39回東京モーターショーが開催された。今回は、乗用車・二輪車部門の展示会で、会期中の来場者数は151万人と発表された。

東京モーターショーでは、「未来のくるま」に使われる世界最先端の環境・安全技術のコンセプトが発表された。環境対応車としては、ハイブリッド車をはじめ、燃料電池車、水素自動車、電気自動車などの展示が目をつけた。

水素エネルギー関連では、燃料電池車や水素エンジンだけでなく、天然ガスから水素・電気・熱を供給する家庭用水素ステーションのコンセプト展示があった。



展示会会場風景



燃料電池車の車体（左）と家庭用水素ステーション(右)（ホンダ）

会期中の10月24日、25日に、日経BP社主催のAutomotive Technology Days 2005が開催され、クルマの電子化について、ハード・ソフトの両面から最新動向について講演があった。

現在の車載用半導体の量は、8インチウェハに換算すると、コンパクト車で0.2枚分、ラグジュアリー車で0.48枚分、ハイブリッド車で0.96枚分と、パソコン（約0.12枚分）よりずっと多い。電子制御ユニット(ECU)の数も、クラウンクラスで70個使用されている。今後さらに、燃料電池車や予防安全システムの導入により、電子システムへの依存度はますます高まるが、これらの新機能・省エネ・省スペース等の要望に応えるには、システムやネットワークの統合化や、SiCなどの新規デバイスの登場が待たれるという内容であった。

次回の第40回東京モーターショーは、2007年秋に開催される。これまで、対象を乗用車・二輪車と商用車に分けて交互に開催されてきたが、今後は、両者を併せて隔年に開催される予定である。

神鋼リサーチ(株) 大西良彦